令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山北高等学校北校舎

校長名：西上 嘉人

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

すべての生徒が「和北」の生徒としてプライドを持てるよう、規律ある学校生活を送るとともに自主的な活動を意欲的に行うことができる学校を目指す。そのための柱は、個に応じた細やかな学習支援により自己実現できる確かな学力を身につけさせること、スポーツを中心としたクラブ活動の充実と強化を図ることである。そして、自ら向上心を持って活動し、他人を思いやり、互いを認め合う生徒の育成を目指す。

学校評価の公表方法

PTA 役員会、学校運営協議会、学校説明会等で説明するとともに、本校ホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月15日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	自主的な学習姿勢と学習習慣を確立し、地域社会で活躍するために必要な「確かな学力」を育成する。	B	生徒の理解度に応じた学習支援を行い学びの質の向上に取り組む。	1人1台端末等のICTを効果的に活用し対面授業との組み合わせ実践率の増加	B	教員・生徒ともICTの活用に慣れ、休校時の対応もスムーズに行い、授業でも積極的に取り入れている。	授業改善を進めICTをさらに活用するとともに、家庭学習用アプリを導入し上位層の強化を図る。一方で、支援の必要な生徒には個別な課題や対応を行い、成績不振者の減少に努める。
			校内外の授業研究会に積極的に参加し、授業改善に努める。	生徒による授業評価の「わかる授業」の指数増加	A	指数が21から42に増加した。ICTの積極的活用や授業形態の工夫等による成果と考えられる。	
			習熟度・少人数展開、生徒の状況に基づく合理的配慮等、個に応じた指導を行う。	成績不振者数の減少、生徒の出席状況の改善と共に、国公立大学合格者を輩出	B	学習支援が必要な生徒も多く、補習を行った。習熟度による上位層の強化の結果、和歌山大1名合格した。	
2	望ましい勤労観と職業観を育成し、生徒が主体的に進路実現に努めることができるよう進路指導の充実を図る。	B	個人面談やキャリアカウンセリングを充実する。	面談時間の増加、就職内定率・進学率の向上	B	4年生大学への進学者は増加した。就職の内定率は100%である。	大学進学においてほとんどの生徒が推薦入試等による受験を希望している。大学入学共通テストの受験とともに一般入試に挑戦する生徒の増加、学力の向上を目指し、生徒の意識変革、学習環境の整備に取り組む。
			就職希望者全員に応募前職場体験を実施する。	1年以内の離職率の減少	A	就職希望者全員が応募前職場体験を行い、離職率は減少している。	
			生徒の希望・能力等を把握し、適切に支援する体制を整える。	進路別・分野別ガイダンス等の充実、進路指導現職教育の実施（年2回以上）	A	生徒への進路ガイダンスを6回実施し、現職教育は2回実施し、アンケートは3回実施した。	
3	多様性を理解し他者を思いやる豊かな心、他者と対話し協働できるコミュニケーション力という、幅広い社会性を身につけた責任ある主権者を育成する。	B	人権尊重の意識を高める活動を学校活動全体に充実させる。	学校評価の「人権教育」の指数増加	A	指数が24から44に増加した。様々な活動が再開した成果と考えられる。	コロナ禍からの規制緩和、体育館の改修終了等により活動機会が大幅に増えたことで、生徒の活動意欲は非常に高まっている。これまで控えていた両校舎合同での学校行事の再開に向けて検討する。
			生徒が自主的に地域で活動する場面を充実させる。	生徒会活動やボランティア活動への参加率向上	A	教員と生徒会が連携し、様々な地域への貢献活動を行った。	
			学校行事や特別活動、LHRなど学校活動全体を充実させる。	学校評価の「HR活動や学校行事の有意義度」の指数増加	B	指数が27から47に増加した。両校舎合同での学校行事ができなかった。	
4	心身を鍛え目標達成に向けて挑戦し続ける生徒を育成するため、クラブ活動の更なる充実と飛躍を目指す。	B	発達の段階に応じた効果的・効率的な指導・運営を行う。	部活動加入率の増加及び学校評価の「積極的に部活動に参加している」指数増加	B	加入率は4%減少し、指数は40から54に増加した。	今年度から始まった特色化選抜・スポーツについて現在の2競技から段階的に増やすことで、全国から優秀な人材を確保し、さらに競技力向上に努める。
			運動部活動の更なる競技力向上を図りスポーツ競技力に秀でた生徒を育成する。	全国大会出場者を100名以上輩出（両校舎合計）及び全国大会入賞者数増加	A	全国大会出場は総体86名、国体28名で、内10種目で入賞。レスリングでは国体優勝、アジア大会銅メダル。	
			指導者としての専門的知識や技能、指導力の向上に取り組む。	部活動指導に関する研修等への参加率増加	B	校外での各種目別研修に多数参加するとともに、体罰・ハラスメント防止等の校内研修を実施した。	

学校関係者評価（2月24日実施）

学校運営協議会からの意見

- 確かな学力の育成について
コロナの影響もありながら、通常に近い形で授業を行う工夫をしている。両校舎ともICT機器の活用や習熟度別授業等、授業改善に努力しているが、さらに新しい取り組みを期待する。
- 進路指導の充実について
進学、就職ともによく頑張っている。北校舎では和歌山大学の合格もあり、例年以上の実績を残した。西校舎では応募前職場体験の全員実施等、丁寧に指導することで離職する者がほとんどいないというのは企業側からも信頼される取り組みである。
- 責任ある主権者の育成について
生徒会が中心となり、教員と様々な課題について積極的に話し合い、制服のポロシャツや女子スラックスの導入につながったことは、生徒が学校運営参加していることを実感できる取り組みである。また、コロナ禍の中で「スポーツ・芸術に触れる地域交流会」を開催し、地域の小学校でのハロウィン・スポーツ体験イベント、文化祭でのお茶会や花火パフォーマンス等で地域住民と交流できたことは、生徒の地域貢献の意識を高めている。
- クラブ活動の充実と飛躍について
全国大会に多くの生徒が出場し、優秀な成績を収めており、「スポーツの北高」の名前に恥じない活躍である。今後は特色化選抜・スポーツを十分に活用して、全国から優秀な生徒をより多く獲得してほしい。そのためにも、競技実績はもちろん、北高の魅力を発信する広報活動や寄宿舎も含めた施設設備の充実が必要である。

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山北高等学校西校舎

校長名：西上 嘉人

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

すべての生徒が「和北」の生徒としてプライドを持てるよう、規律ある学校生活を送るとともに自主的な活動を意欲的に行うことができる学校を目指す。そのための柱は、個に応じた細やかな学習支援により自己実現できる確かな学力を身につけさせること、スポーツを中心としたクラブ活動の充実と強化を図ることである。そして、自ら向上心を持って活動し、他人を思いやり、互いを認め合う生徒の育成を目指す。

学校評価の公表方法

PTA 役員会、学校運営協議会、学校説明会等で説明するとともに、本校ホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月15日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	自主的な学習姿勢と学習習慣を確立し、地域社会で活躍するために必要な「確かな学力」を育成する。	B	全教職員が共通理解の上、基礎学力・学習規律の定着を図る。	授業前入室着席の徹底と授業中の教室巡視	B	予鈴とともに着席の習慣はできつつある。今後は授業態度の改善が課題。	授業に集中できない一部の生徒に対応するため、必要に応じてTTで授業を行う。合理的配慮が必要な生徒への対応方法について特別支援的観点を取り入れる。
			校内外の授業研究会に積極的に参加し、授業改善に努める。	生徒による授業評価の「わかる授業」の指数増加	C	指数は昨年より減少した。授業態度に課題のあるクラスでTTを実施した。	
			習熟度・少人数展開、生徒の状況に基づく合理的配慮等、個に応じた指導を行う。	成績不振者数の減少、生徒の出席状況の改善	B	生徒個々の課題に応じた指導を行い、成績・出席の状況は改善してきた。	
2	望ましい勤労観と職業観を育成し、生徒が主体的に進路実現に努めることができるよう進路指導の充実を図る。	B	個人面談やキャリアカウンセリングを充実させる。	面談時間の増加、就職内定率・進学率の向上	B	希望者の進路はほぼ決定したが、コロナの影響で決定が遅れた生徒が多い。	今年度から2年のインターシップを再開した。進路意識を高めることで生徒の動き出しを早めていきたい。スポーツ健康科学科の進学先として県内医療系大学等との連携を進める。
			就職希望者全員に応募前職場体験を実施する。	1年以内の離職率の減少	A	就職希望者全員が応募前職場体験を行い、離職率は非常に低い。	
			生徒の希望・能力等を把握し、適切に支援する体制を整える。	就職指導員との連携、進路指導現職教育の実施（年2回以上）	A	学年別のガイダンス、職場体験等、全職員の協力で行った。	
3	多様性を理解し他者を思いやる豊かな心、他者と対話し協働できるコミュニケーション力という、幅広い社会性を身につけた責任ある主権者を育成する。	B	人権尊重の意識を高める活動を学校活動全体に充実させる。	学校評価の「人権教育」の指数増加	C	指数は昨年より減少した。周囲への配慮に欠ける生徒への指導が課題。	課題のある生徒に様々な教員が関わっており、情報共有の機会が少ないため、関係者によるケース会議を定期的開催する必要がある。また、SC等が教員の相談に乗る機会も設ける必要がある。
			生徒が自主的に地域で活動する場面を充実させる。	生徒会活動やボランティア活動の参加率向上	B	教員と生徒会が連携し、様々な活動が再開できるようになった。	
			生徒が社会で活躍するための個別支援を充実させる。	SC・SSWとの連携、通級指導の実施状況	B	昨年より始まった通級指導も軌道に乗り、教育相談室も機能している。	
4	心身を鍛え目標達成に向けて挑戦し続ける生徒を育成するため、クラブ活動の更なる充実と飛躍を目指す。	B	知徳体のバランスを目指し、普通科全員に部活動参加させる。	部活動加入率の増加	C	普通科生徒の加入率は1%減少した。アルバイト希望が多い。	今年度より始まった特色化選抜・スポーツについて現在の2競技から段階的に増やすことで、全国から優秀な人材を確保し、さらに競技力向上に努める。
			スポーツ健康科学科生徒の更なる競技力向上を図る。	全国大会出場者を100名以上輩出（両校舎合計）及び全国大会入賞者数増加	A	全国大会出場は総体86名、国体28名で、内10種目で入賞。レスリングでは国体優勝、アジア大会銅メダル。	
			教員・生徒の運動生理学、栄養学等のスポーツ科学への理解を深める。	部活動による障害等の減少	B	スポーツ健康科学科対象に大産大と高大連携事業でスポーツ科学やメンタルケアについて学び、意識は高まった。	

学校関係者評価（2月24日実施）

学校運営協議会からの意見

- 確かな学力の育成について
コロナの影響もありながら、通常に近い形で授業を行う工夫をしている。両校舎ともICT機器の活用や習熟度別授業等、授業改善に向けて努力しているが、さらに新しい取り組みを期待する。
- 進路指導の充実について
進学、就職ともによく頑張っている。北校舎では和歌山大学の合格もあり、例年以上の実績を残した。西校舎では応募前職場体験の全員実施等、丁寧に指導することで離職する者がほとんどいないというのは企業側からも信頼される取り組みである。
- 責任ある主権者の育成について
生徒会が中心となり、教員と様々な課題について積極的に話し合い、制服のポロシャツや女子スラックスの導入につながったことは、生徒が学校運営に参加していることを実感できる取り組みである。また、コロナ禍の中で「スポーツ・芸術に触れる地域交流会」を開催し、地域の小学校でのハロウィン・スポーツ体験イベント、文化祭でのお茶会や花火パフォーマンス等で地域住民と交流できたことは、生徒の地域貢献の意識を高めている。
- クラブ活動の充実と飛躍について
全国大会に多くの生徒が出場し、優秀な成績を収めており、「スポーツの北高」の名前に恥じない活躍である。今後は特色化選抜・スポーツを十分に活用して、全国から優秀な生徒をより多く獲得してほしい。そのためには、競技実績はもちろん、北高の魅力を発信する広報活動や寄宿舎も含めた施設設備の充実が必要である。